発 行 附

iùi

甲府一高新聞部 BUN 2023年5月20日 中部衛衛衛出版第二十月

一時間余

成によるもので紀念行事の最後を飾るのにふざわしいものであった。との一行は七〇名という編た。これは本校創立八十五周年記念行事の一環として行なわれたもので、との一行は七〇名という編た。これは本校創立八十五周年記念哲事の一環として行なわれたものであった。

ケストラー

れた。本極初には関方から入り、れる始めのうちは、ニート四月に強かたいという意関によりと与上げら、振いすることになった。だが、との相様があまりにも大き一つだいという意関によりと与上げら、振いすることになった。だが、との相様があまりにも大き一つたいという意関によりと与上げら、振いすることになった。だが、との相様があまりにも大き一つたいという意図によりと与しておき、中国が大き、中国が大き、大学、との関数会の原案は、昨年八十一 会接側では始め高級会会をNIIK あったいという 識により学校側を通過した。 んにより先頃決定されたばかりで はんにより先頃決定されたばかりで はんだい イオリンの窪田教授とのあっせ 郷 徒一人一枚当てに負担されたス場 であるか。 でオーシー との公前のための費用はおよそ

段は最高特別席で一〇〇〇円、自にも御協力を願った。との券の邸

大きい。ある者は「家が旧舎であた」ということはないだろうが、指定にはないだろうが、指定には残してほしくない。」と語っておられたが、生徒側の不満も交であられたが、生徒側の不満も交にない。ある者は「家が旧舎であ た」ととぼしていた。「自己員 金額があまりにも大

音樂会に

前十一時三〇分より県民会館大侍娘の加奏会は十一月二〇日、 係りの先生(川崎先生)は「去年八人が多い。それに対して学校側の よいう希望があったので、先生方 十月二十日に音楽会の券が配ら

これに不関をいだいている

高生ここに有り ひたり芸術の秋にふさわしく、 強いわけで、音楽が嫌いで興味が ことになりました。また、この上 2年代であるから感激もいっそう2な音楽会を聞く事はあなたたち

の話しによると、「教頭先生が八拾委員会が開かれた。生徒会役員

れるまでの経過は七月の半ばまで

この計画が自治委員会に伝えら

百

名

個権的に自治活動に参加 おし進めよう。 動への関心の称さっであり 生徒会の真の向上発展を

語々である。 に燃えた自治連織の極度な沙 この観測は、最

い間に強く根を取り、蔓延して打算的なエゴイズムが、氏て打算的なエゴイズムが、氏ではない。本校生の、きわめではない。本校生の、きわめが、大切が、大切が、大切が、大切が、大切が、大切が、大切が、大切が、大切が、 大局的な事に目

今一大危機に直 れはほかで 本校生徒会は ません。大脳成の薬団を呼んで演し、は取らなかった。しかし、

彼だの、飛躍云々などと意気あるいは諸行事のマンネリ打

つまで続

補者が出ない。という実に **活動に対する態度を象徴して** ある。 た。一という結果に終るので との歪んだ本校生の生徒会

生建総数于九百余名と、

俺には関係ないよ。 そのうち 望めないのだ。 「そんな事、 昨年、喜ばしいかな従来のない。 度を反省し改めなければなら などと、他人事の様に考え 奇特な奴が現れてくるさ。 大部分なのではな

沈滯 4

学戦がくり広げられ、さらに 近年倒をみない。藁々しい選 修構ムードを破るがごとく、 顔立以来、空前の大世俗と それを反映してか / 選番側 ソに発足したのであった。 活動の飛躍をスロ 要があると共に、自分達の他

かなわれた。とれば本校に対け、年を飾るに本さわしい間である。 りでなく、先生方、同感会の方々 強いこま、きききて てしたりもの ピアノ。リスト作曲「ピアノ凶奏 **滑った程のもので、誠に八十五周はプラームス自身 [笑ら序曲] と** 名の腐成によるものである。 フームス作「大学観典序曲」 これ 厳粛なる後歌斎唱がすむと、 ブ

指揮担当の役辺勝男氏も「あんな 始めてた。大変やりよかった。」 父、川崎先生は「会場のみんな

ある者は「予想以上にすばらしか、この会の感想を生徒のうちいものであった。 はないだろうと思う」とはない 八十五周年の配念行事にふされ

運命〟を頭に三曲

と語っておられた。

このように、との会が大成功し

他ん

深くもぐり

また労は、学生形の節

の参ぶくしておくぞ。

備えてのヶ先生です

する。

った。何回聞いてもあきるもので

した。」と語っておられた。いたさすが一高生だというかんだ

た原因は祖奏者と聴衆が一体とな

である方々、一三〇〇余名の鼎衆、直奏会は、いろいろな問題点が残 が、音楽を心ゆくまで楽しんだ。 されてはいるが、まずは静粛、大 である方々、一三〇〇余名の鼎衆、直奏会は、いろいろな問題点が残

な「オデン

差

かりならぬ」というおふれか 出された。ことの個りは、本 他に忠実な男が外外側に々 チョットーバイッチャーへと たべに行ったのが、砂芸先生 にみつかったことにあるのだ 立、人をは、券を売った金になかで売りさばき、リペートとかで売りさばき、リペートとかで売りさばき、リペートとかで売りませる。

とび込んできて「今の

たいへんなけんざくで

がおとなわれたが、各自割りて、軽大オーケストラの演奏 ○八十五周年の記念行事とし トクをしたのだろうか? 考に。はたして、誰がどれだけまけてやった観を逞して先生 えれは考えるほど不思議なお

②最近、北部は「科学書」ブ

今や、本様の伝統も、 やらいのヤシはつきも を問いていた三年生は

なにも知らされていた

R・Tが弊を配る時に で困った。」「あまり で困った。」「あまり で困った。」「あまり 制しすぎる。予告なし生徒の意見を聞いて から無理が生じた。」

点の曇り

もらいたいものです。」と語され、頭兔生に言われたが、伝達が十分。の一般地声」ということについてここにまた問題が残っているいのお念は出しても聞いて、を含クラスに連載するように、教、国会が細かれるまでは、この「夢」なった。と述べているからり、このような過寒はめった」ということになる。又、この語を「題めて少なかった」。 てき頭発化は「H・Lかかり、このような過寒はめった」ということになる。又、この語を「題めて少なかった。 てき頭発化は「H・Lかかり、このような過寒はめった」ということになる。又、この語を「題めて少なかった。 でき頭発化は「H・Lがかり、このような過寒はあった」ということはことを開発している。 に行なわれたクラスは、企役でも「などの意見があった」

会員券販売の波紋

企園の受験者のコ 0 適 性 を 別准

大学 正義國のお田かれた、4個金を長、戦後のベビー・ブームで、その上で、正規が生命である。 「上規単記念行事の言葉や会主は、世界にかり、の語してような、文学 では、任意のであってもらいます。」に、う異たな敷を出しそうな、文学 では、任意のであってもらいます。」に、う異たな敷を出しそうな、文学 では、「自然を売ってもらいます。」に、う異たな敷を出しそうな、文学 の話しています。」に、う異たな敷を出しそうな、文学 の話しています。」に、う異なな歌を出しそうな、文学 の話しています。」に、う異なな歌を出しそうな、文学 文字 一の資料や、社会環境などから見れ、薫四十男、文料系六十男と、多数四別は木枝もこれに大変似て、地料 師・楽譜が出来 **歩「私、明**

ス々の先輩か味わった苦い経験を 2からである。 過去何年もの間、 現在の大学受験者数は年ごとに び我々は繰り返そうとしてい なければ」など る事は大変危険 る事は大変危険 一人、環境が弾料へたから融料へ 文料へ」また、 「自分の周囲の から文科の英

・七の関合。マどうしても約四十時、七の関合。マどうしても約四十時、大学一に対して受験者・・バーー・ 多いのである。 がちた。か哲、に最適だと考え

自分の進むべき道、進路(最終 コースの晃誤り が取れず趣第。しか

に生徒の列もまばらになってい

のは、御父兄の万々や先生方が心。させるべきた。との回答で全然変。知事に礼は

月の光に照らし出ざれた彼の圏

mildet Haney

O時間は十月では墨かったので いい といく九月でるにしてほ

小商 松原網

226 値のほ 119 野辺川 34)

るとなりで四十回

にまで維度され、

、また生徒からの要望により

はなかった。

ర్థ ర్మ

なにかしら我々

私選の努力も

それを討議し派認す 会にこの様に高い伝えただけで、

よ小道というとどろで大塚分が落。たちの良識で品質を助いでほしいたととであろうか。しかしいよい、らやる必要がある。 たから、生健たとであろうか。 しかしいよい、らやる必要がある。 たから、生健たとであろうか。 中でも野部印本部のシジー 東た。 貧輪笥町でのサンバリンあった。 中でも野部印本部のシジー 東た。 貧輪笥町でのサンバリン

昨年、昨年と続いた中島から、

一様に佐久街道の終局である小諸

的地小諸までは実に二百三十名と し大きく飛騰した。女子の場の中込が西五十名であったの

官は、縁点の小海まで百五十二

て歩き続けた。一時間・一時間と一等を述べていた。自四十一号線を一路小諸に向かっ」った

ではその強歩の組を写し出してみ

月齢や二年の修学旅行、また晩歩 万もスムーズに進んでほしか 雅 終わりに、展野県知事からの歪

が感じられた。そして、二学かに我々の、自治意識の高揚 各クラスから遺数しそ

F"

かったのだろう

ての計算)四人に一人の捌合で大は一人二・五便を受けたものとし

な事相等の進

ゼロに等しい。生徒の意見が会は実に貧弱だ。存在価値は れない。」と、嘆いてみたり とうした自分達の根本精神

では生徒会の発展は、とても

既に不可避な所まで、 か。本校生のエゴイズムは、

多少あるが、平均約四倍。(これまた競争率は各大学によって発は %の人が次の年まで無駄金を使う

であった。まず今回の日、徹歩」として、NHKテで無事終了した頻夢、結っさて、今回の強歩は、一 「スタジオー〇二二にも放送さ

いますが、目的地についたのは

るのである。

酒殆な質議応答がなされ、

がとられた。しかし、感じる

必死にもがいてい

のすべてを終すした。狼窩にある一つ一であった。運よくさばけた。 海巣歯ヶは、十一月二十日に「がず夢の飛りさばき方ヶもその中、八十五周年総窓行事の一つであった。 独納倫 文外 松間 413 87% 142 86% 75 36 们华 42£ 1 4 2 % 55 39 67 47 20 14 115,9 154.0 4196 3886 160 141 112 他家自 ① 進学希望 48.0 3456 2796 47% 見方の違い 先生と自分の 買っても聞きに行かない人 6 4 % 1 1 1 2 % 12: 19% 42 38% 1 1 9 1 4 1 1 42 35% 37: 26% 2 0 % 12 60% 6 7 17 25%

白銀に映える

直滑行クリスチャニア……籗山にゲレンデに若さがとびはねる 新雪にシュプールを躓いて あなたの冬の休暇をお楽しみください 若さのモードノ ●スキー一式〔スキー板(合板)靴(ダブル)ストック(スチール) ●年内は休まず営業22日まで7時 23日から夜間9時まで営業いたします

意見の一つとして出されたもので



発行剂 甲府一高新聞部 山村 4年1月 20 年 11 日 817 日 20 23 24 19 16 日

時間余 八十五周年 文化祭 大場券販売の被収 大場券販売の被収 大場券販売の被収 大場券販売の被収 大場券販売の被収 大場券販売の被収 大場券販売の被収

関係記念行事予定の中に生徒の一との関数会の原案は、昨年八十 成によるもので紀念行事の最後を飾るのにふさわしいものであった。た。これは本校創立八十五周年記念行事の一環として行なわれたもので、た。これは本校創立八十五周年記念行事の一環として行なわれたもので、立る十一月二〇日、県民会館大ホールにおいて東京芸術大学管絃楽団に でしたが、この相様があまりにも大きりのを修築団に依頼する予定であった。 この一行は七〇名という編 名の構成によるものである。

・ LEME MARIE A COMPONIC AND CALL MARIE AND CALL M

という回もさか

でおられたが、 生能側の不適も交 が出欄では「全部増りさばける ということはないだろうが、 指定 を構してほしくない。」と語っ でおられたが、 生に側の不適も交 した。ととぼしていた。「自己員との売る当てがなく、自己負担のため売る当てがなく、自己負担のように、ある者は「家が田舎であ 持頭の加製会は十一月二〇日、

たことであるうか。しかしいよいらやあ必要がある。たから、生きげこの一体で増せればご扱われケは事故や発見するものであるあった。 資輸資町でのナンバリス・コード なにかしら我々もうれしくな

一部年、昨年と続いた中語から、

全国は本極國立八十五時年至

接に佐久街道の終局である小胡

おし進めよう。という愛校心て、生徒会の真の向上発展を 一個えた自治療験の極度な沈

ゼロに等しい。化能の感覚が るのである。 を改めすして、「我々の生徒とうした自分達の根本精神

れない。」と、喊いてみたり来概に学校側に、受け入れら

て打算的なエゴイズムが、長ではない。本校生の、きわめき上がってきたの との拒んだ本校生の余律会

ケストラ

運命〟を頭に三曲

ノームス作「大学院典序曲」 これ 戦雨なる後歌済唱がすむと、 ブ

始めてた。大変やりよかった。」 した。」と語っておられた。又、たさすが一萬生だというかんじか

ものであった。

川崎先生は「会場のみんな

にみつかったことにあるのだが。 チョットーバイ々イヤー本と、おされた。ことの紹りは、本出された。ことの紹りは、本かりならぬ」というおふれが

がおとなわれたが、各自間で

こうして、東京楽術大学による「好評のうちに帯を隠じた。 がい 音楽を心ゆくまで楽しんだ。 されてはいらが、まずは静峭、大い、音楽を心ゆくまで楽しんだ。 されてはいらが、まずは静峭、大いある方々、 一三〇〇余名の聯楽、西奏会は、いろいろな問躍点が残

会員券販売の波紋 点の曇っ

適性

を

いからである。単方句でものは 一人、環境が理科

かったのだろう 少あるが、平均的四倍。(とれた酸争率は各大学によって発は

他には関係ないよ。そのうちでは生徒会の発展は、とても では生徒会の発展は、とても

がとられた。しかし、感じ

趣の口 野辺山

で歩き続けた。一時間・一時間と で歩き続けた。一時間・一時間と 月の光に服らし出ざれた夜の層韻四百九十三名(金目制のみ)は、

万もスムーズに遂んでほしか

りて五日夕如、接接先生の

の場が消費では実に二百三十名 と「スタジオー〇二」にも放送され 類が、」として、NHKチレビの があ」として、NHKチレビの

もっと見く九月でうにしてほの時間は十月では果かったので

炎如として、

解わりに、展野県知事からの

つま で続

近年例をみない。壁々しい。修権ムードを破るがごとく、

コースの見誤り

立、人をは、非を死った念にかで施りさばき、リペートとかで施りさばき、リペートといて、 が答

トクをしたのだろうか?
ちのをして、誰がどれだけ
はたして、誰がどれだけ

音樂会に

十五周年配表行事として実施して、もらいたいものです。」と顧され、顔が在に言われたが、伝道が十分の一般販売」ということについてこにまた問題が拠って、係りの先生川崎先生は、「去年八 しくらいのお命は用しても鳴いて、を多クラスに連載するように、教 国会が創かれるまでは、この「寿 なった。」と述べている。人が多い。それに対して学校側のに聞かれないのだから、作徒が少 経えた後に、H・B別事はどの事 しかも本夜の本部投資は皆治妻しているからH・B・十ち、これに不協をいだいている」かかり、とのような健療はめった。ということになる。又、この話を 極めて少なぶった。
 十月、丁・日に資源会の姿が配ら、痩してもらうとなると費用も相当。生徒に対象域会の改革を移っている。にはなわれたクラスは、企校でも大きの意見があった。

他に会員沙を売ってもらい走す。に無料で聞いてもらうために、化

自

A